

わがマチの自慢第九回は、栗山町を取り上げ、開拓の軌跡をテーマに紹介する。

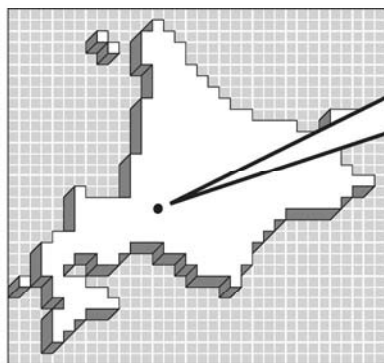
## 1. 明治・大正の黎明期を牽引した

栗山町はかつて夕張炭鉱の石炭を運ぶ夕張鉄道と国鉄室蘭線の交差する交通の要衝として発展した。この地理的誘因により商工業が必然的に栄え、現在農業を基盤とするも、農業、商業、工業のバランスの良い産業構成となっている。

栗山町の往時の繁栄をしるばせる「栗山天満宮秋季例大祭」に、近年では「くりやま老舗まつり」<sup>しにせ</sup>、「くりやま夏まつり」を加えた三大祭りが賑やかに町を熱くする。

「くりやま夏まつり」は栗山町を代表する夏のイベントで、七月第四または第三金・

## 連載 わがマチの自慢 No.9



### 栗山町

— ふるさとは栗山です  
誰もが笑顔で、  
安心して暮らすまち —

土曜日に駅前通り商店街、商店街イベント広場で行われる。初日は郷土芸能パレードや活みこしが会場を練り歩き、二日目には全道から二〇団体を超える和太鼓チームが集結し、全チームが一斉に打ち鳴らす太鼓演奏は圧巻、打ち上げ花火がさらに演出を盛り上げること。

「栗山天満宮秋季例大祭」は九月二日から二六日に駅前通り、公園通り、栗山天満宮で開催される。かつては各地の祭礼を回った露天商たちが最後に集っていた名残りから（今も南空知では最後の



旧栗山駅

一番大きな祭りとして人気がある）、三〇〇店を超える露店は道内屈指で、特産品が集う「くりやま味覚まつり」もあり、九月二五日には獅子



栗山天満宮秋季例大祭 神輿渡御



くりやま夏まつり 和太鼓演奏

舞や御神輿渡御が町内を練り歩くとのこと。

「くりやま老舗まつり」は後ほど紹介するが、いずれの祭りも町外からの来場者がすさまじく、近辺の道路が渋滞するほどの盛況さを誇っている。

## 2. かつての由緒ある農場が切り開いた

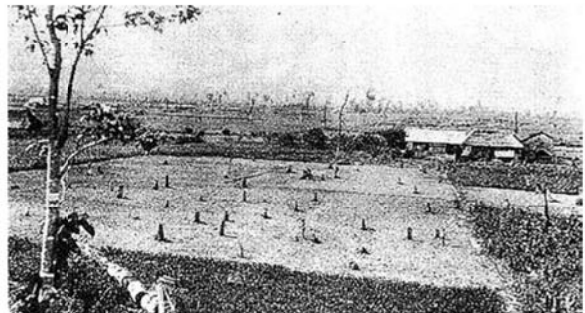
仙台藩の支藩角田藩土泉麟太郎が中心となって北海道へ渡り、夕張郡アノ口の原野を探し当て、「夕張開墾起業組合」の看板を掲げ、現在の栗山町角田に第一歩を印したのは一八八八年であった。

また、かつて皇室の御料地、北海道大学の前身・札幌農学校の農場、鳩山農場(注1)、湯地農場(注2)など民間の多数の農場が大規模な面積をそれぞれ独自に

開拓した農地が現在の栗山町農業の礎となっている。それぞれその痕跡として、御園(みその)、北学田(きたがくでん)、南学田(みなまがくでん)、鳩山(つばやま)（鳩山神社）、湯地などという地名が残っているのである。

戦後、農地改革により、小作本位から自作農創設へと舵が大きく切られ、これら農場はその使命を終えたのである。

さて、現在に目を転じると、栗山町は、町内の農業関係機関が結集し、北大農学部など町外アドバイザーを頼み、栗山町の農業を次の世代に引き継ぐため、担い手づくりや生産性向上、地域活性化に取り組むことを目的として農業振興公社を組織し、各種農業の課題に取り組んでいる。中でも農業の衰退を招く少子高齢化による担い手不足対策として新規就農者対策は最重要課



札幌農学校第6農場

題であり、就農希望者からの相談対応や就農者の支援に力を入れている。

また、数ある「くりやまブランド」の農産物の中で、タマネギ「さらさらレッド」という品種が注目されているのが新しい話題である。従来のタマネギに比べ、がん予防や

アレルギーを改善する「ケルセチン」が一・五から三倍もあり、真っ赤な色の特徴であるとのこと。

(注1) 鳩山由紀夫元内閣総理大臣の曾祖父鳩山和夫が開設した農場。和夫も衆議院議員であった。

(注2) 旧薩摩藩土湯地定基が開設した農場。湯地は藩命で渡米し、札幌農学校建学の祖クラークが学長のマサチューセッツ州立農科大学で学んだ。農業試験場「七重官園」(現在の七飯町)の初代試験場長、根室県令、貴族院議員を務めた。実妹静子は乃木希典大将の夫人で、明治天皇に殉じて夫と自刃。

### 3. 老舗が牽引している

小林酒造株式会社は一八七八年に札幌市で造り酒屋とし

て創業した北海道最古の蔵元で、初代小林米三郎が「北海道で錦を飾ってやろう」という意気込みから銘酒「北の錦」が誕生した。夕張川の水利に富むこの栗山町に拠点を移したのは一九〇一年。他メーカーに先駆けて道産米を使用した酒造りにも着手し、二〇〇八年からは糖類などの添加物を完全廃止し北海道唯一の全商品、本醸造以上の酒造りを実現し、人・米・水すべてが北海道という地酒中の地酒を目指している。

谷田製菓株式会社は一九一三年に個人経営により製飴工場を創業。一九二四年に北海道開拓の精神と関東大震災の復興を願い命名した「谷田の日本一起備団合」を作り出した。一九四九年に株式会社組織に改め、道内各菓子問屋を通じ広く全道に販売し、主力



老舗まつり

商品はご存知「日本一のきびだんご」である。

今年も創業一三八年の小林酒造(株)の「北の錦酒蔵まつり」と創業一〇三年の谷田製菓(株)の「きびだんごまつり」がジョイントした春の「くりやま老舗まつり」は四月第二

土・日曜日に錦三丁目を会場に開催される。小林酒造では完全ガイドによる酒蔵開放、谷田製菓では工場を開放し製造工程を見学できる。各種銘柄の日本酒や杜氏が育てた麴でつくる「幻の甘酒」などの無料試飲、きびだんごの試食サービス、即売会などが行われ、毎年二万人を超える来場があるとのこと。町内各所に臨時駐車場を設け、駐車場から会場に近いJR栗山駅まで無料巡回バスを運行し対応している。

### 4. 里山を復元する

栗山町では、「国蝶」オオムラサキが一九八五年に御大



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

師山<sup>しやま</sup>で生息が確認され、日本の北東限地域となっている。この発見を機に栗山町のシンボルとして自然環境を保護する意識が高まり、「里山の復元」の動機づけとなった。一九八九年には御大師山一帯が環境庁（現環境省）の「ふるさといきもの里」に選定され、オオムラサキの幼虫が食するエゾエノキの植樹、



ハサンベツの日の活動風景

動植物の生育調査や環境づくりなど、自然との共存に向けた活動を行っている。これらの実践の形として、雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス、「ハサンベツ里山二〇年計画」などが存在する。

雨煙別小学校は戦前の一九三六年に建てられ、木造二階建ての校舎としては歴史的建

造物で、二〇〇九年に（公財）コカ・コーラ教育・環境財団の支援と多くのボランティアの参加によって新しく生まれ変わった。八〇名収容の宿泊施設と様々な体験プログラムが用意され、青少年団体を中心に環境教育の実践やスポーツ合宿の場となっている。

ハサンベツ里山二〇年計画は、人と自然が共生する環境を残したいとの思いから、町民有志が二〇〇一年にハサンベツ里山地区の二四haの離農跡地を購入して活動が始まった。毎年五月から十一月の第二日曜日に「ハサンベツの日」として町内外から賛同者が集い、小川や田畑などを復元し、トンボやヘイケボタルなど、かつての生態系を徐々に取り戻す活動を行っている。

明治・大正の黎明期から北海道の諸産業を牽引してきた格式の高い、誇り高き町も今の人口流出、少子高齢化の波は避けがたく、移住の推進、新規就農者の受入れ、国蝶オオムラサキを看板とした里山の復元など魅力あふれる町づくりを第6次総合計画（平成27年度～34年度）に託している。（以上については、「栗山町史」、「北海道栗山町公式観光ガイドブック」ほか栗山町の各種資料を参照するとともに、栗山町の監修をいただいた。）

一般社団法人 北海道地域農業研究所  
特別研究員 西野義隆